

水 振 協 ニ ュ ー ス

(平成 26 年度号)

編集・発行 (公財) 滋賀県水産振興協会

草津市志那町柿根 1393-2

TEL 077 (568) 3451

FAX 077 (568) 3788

平成 26 年度の放流事業結果は・・・

- ・「ニゴロブナ 1,450.2 万尾・ホンモロコ 1,138.6 万尾・ワタカ 10.4 万尾」を放流！
- ・「人工河川 アユ親魚 9.7 トンの通常放流」を実施！「18.3 億尾のアユふ化仔魚」が琵琶湖へ流下！
- ・「平成 26 年度 新規事業として、セタシジミ資源回復の技術開発を行うため、セタシジミ増殖実証事業」を実施！

ニゴロブナ

2 cm 稚魚の放流尾数は、水田育成が 1,139.9 万尾(計画 800 万尾)、栽培漁業センターでの生産放流が 6.7 万尾で、合計 1,146.6 万尾でした。また、平均体重 16.5 g の大型稚魚 51.9 万尾を栽培漁業センター、平均体重 20.1 g の大型稚魚 30.3 万尾を北山田地先筏(草津市)で生産し、さらに滋賀県漁業協同組合連合会(県漁連)から平均体重 13.2 g の大型稚魚 11.4 万尾を購入し、合計で 93.6 万尾(計画 95 万尾)を放流しました。その他に、県漁連では平均体重 12.3 g の大型稚魚 30.1 万尾を独自事業として放流しています。

水田育成 主に沿湖漁業協同組合の御協力により実施し、558 反の水田にふ化仔魚換算で 2,000 万尾を放養し、約 1 か月後の中干時に 2~3 cm の稚魚 1,139.9 万尾 を琵琶湖に放流しました。水田からの稚魚の流下率(流下尾数/放養尾数)は約 57% でした。

また、赤の井湾周辺の水田(守山市) 52 反にふ化仔魚 210 万尾(計画 200 万尾) を放養しました。水産試験場の調査によりますと、流下率(流下尾数/放養尾数)が約 34% で、71 万尾の稚魚が赤の井湾地先に流下しました。

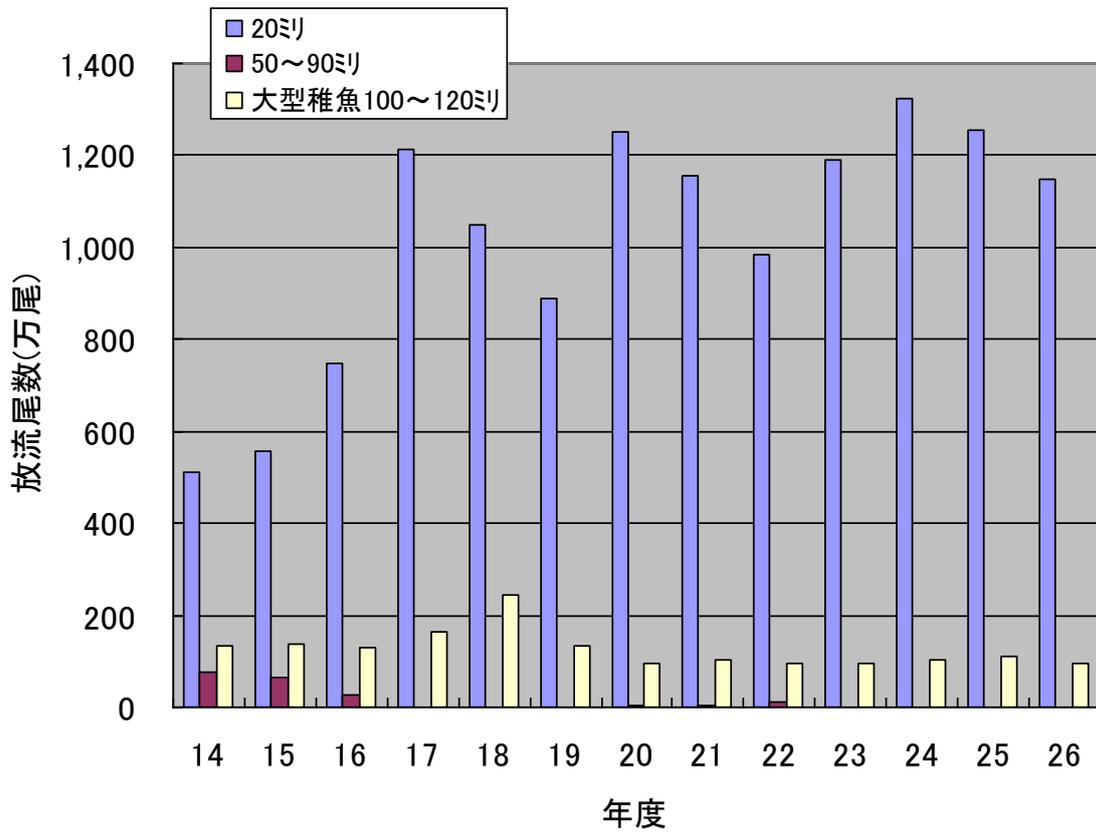
放流効果 当協会では種苗放流の事業効果を知るために、平成 27 年 2~3 月の今冬季に、小糸網、沖曳網漁業で漁獲されたニゴロブナの標識調査を行っています。今冬季の放流魚の混獲率(漁獲魚に占める放流魚の割合)は調査中ですが、平成 26 年 2~3 月(冬季)の放流魚の混獲率は 30.3%(前年は 50.6%) で、前年に比べて低くなりました(北湖での漁獲物調査)。前々年より、放流魚の混獲率は減少に転じており、このことは逆に天然魚の割合が増加傾向にあることがうかがえます。それら放流魚のうち、水田放流の稚魚と沖合及び沿岸に放流した大型稚魚の混獲の内訳は、各々 13.1% と 17.4% でした。また、平成 26 年 3~6 月の南湖における放流魚の混獲率は、34.8%(水田放流の稚魚が 7.1%、大型稚魚が 27.6%) でした。



水田から流下した2~3cmに育ったニゴロブナ稚魚
(流下調査時)



ニゴロブナ大型稚魚の放流(南湖)



ニゴロブナの年度別放流尾数(万尾)の推移

ホンモロコ

水田育成 平成 26 年度も、昨年度に続きニゴロブナと同様に、より放流効果の高い水田の生産力を利用して 2～3 cmの稚魚に育ててから、中干時に琵琶湖へ放流しました。詳細につきましては、主に沿湖の土地改良区管内の農業者さんの御協力により実施し、870.8 反の水田にふ化仔魚換算で 2,854 万尾を放養し、約 1 か月後の中干時に 2～3 cmの稚魚 835 万尾(計画 800 万尾)を琵琶湖に放流しました。水田からの稚魚の流下率(流下尾数／放養尾数)は約 29%でした。

また、赤の井湾周辺の水田(守山市) 65.0 反にふ化仔魚 203 万尾(計画 200 万尾)を放養しました。水産試験場の調査によりますと、流下率(流下尾数／放養尾数)が約 5.3%で、11 万尾の稚魚が赤の井湾地先に流下しました。

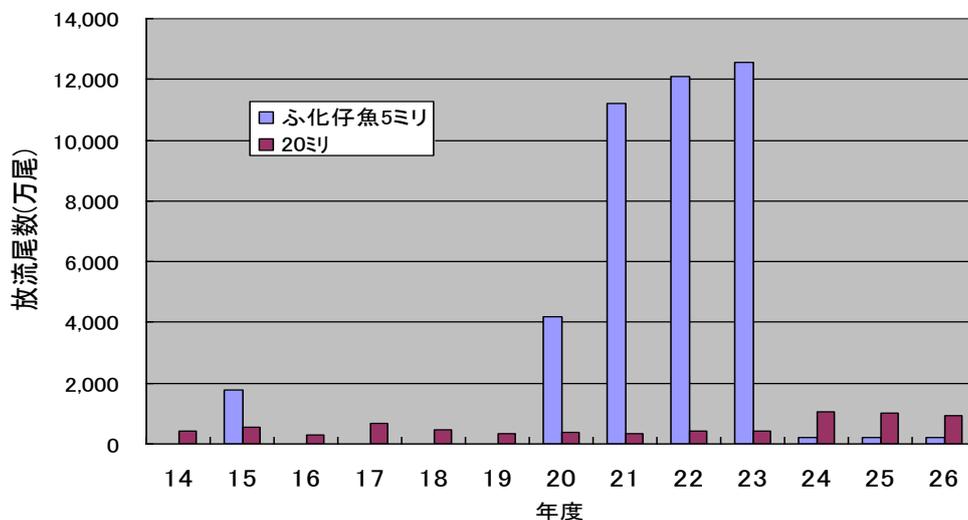
北山田地先筏 北山田地先筏(草津市)においても 2 cmの稚魚を生産し、100.6 万尾(計画 100 万尾)を南湖(草津市下笠地先)に放流しました。



水田から流下した2～3cmに育ったホンモロコ稚魚
(流下調査時)



北山田地先筏で生産したホンモロコ2～3cm稚魚の放流
(放流場所:草津市下笠地先)



ホンモロコの年度別放流尾数(万尾)の推移

ワタカ

栽培漁業センターでワタカ 5 cm稚魚 10.4 万尾(計画 9 万尾)を生産し、主に南湖に放流しました。

また、琵琶湖南部を中心に漁獲された 576 尾について標識調査を行い、その結果、漁獲されたワタカのうち放流魚は、72.6%(前年は 81.8%)を占めていることがわかりました。



ワタカ稚魚の放流



ワタカの標識調査

アユ (人工河川管理運用事業)

平成 26 年度は、早期放流用の養成親魚として、8 月 25 日～9 月 8 日にかけて親アユ 8,000 kg、271,400 尾を安曇川人工河川へ通常放流しました。また、姉川人工河川へは、9 月 10,13 日及び 19 日に姉川河口のヤナで特別採捕した天然親アユ 1,709 kg、154,600 尾を放流しました。それら放流親魚の産卵ふ化の結果、9 月 7 日～10 月 15 日にかけて合計で 18.3 億尾のふ化仔魚を琵琶湖へ流下させました。



養成親魚の放流(安曇川人工河川)



天然親魚の特別採捕(姉川ヤナ場)

セタシジミ（セタシジミ増殖実証事業）

平成 26 年 12 月から平成 27 年 2 月にかけて琵琶湖でセタシジミの親貝約 600 kg を採捕し、肥満度を上げるため富栄養な西の湖まで移送、垂下し、現在肥育養成中です。垂下肥育期間中は、月 1 回程度、垂下親貝の清掃等の管理を実施し、平成 27 年 5 月頃には新たに設置した近江八幡、彦根市の地先 2 か所の産卵場へ肥育した親貝を再移送し産卵させる予定です。また、放流した親貝の産卵状況、稚貝の発生状況等の事業効果については、今後県水産試験場と共同で調査する予定です。



西の湖で垂下肥育した親貝(平成25年度琵琶湖で採捕)を産卵場へ再移送し放流(近江八幡地先)

最後になりましたが、県水産課、県水産試験場及び各関係漁業組合に対しまして、種苗生産、放流及び標識調査にご協力頂きありがとうございました。